

中津出身・永松さんが35冊目の著書を出版

諭吉さんの思想 触れて

ベストセラー「人は話し方が9割」の著者、永松茂久さん（中津市出身）が、郷土の偉人・福沢諭吉の「学問のすすめ」の教えをストーリー仕立てで伝える「拝啓、諭吉様。」（ずばる書・1870円）を出版した。中津でくすぶっていた青年が諭吉の霊と出会い、諭吉ゆかりの地を巡りながら人生の指針をつかんでいく物語。35冊目の著書となる今作への思いを聞いた。

（聞き手は木村真弓）



「本を通して諭吉さんや中津を知ってほしい」と語る永松茂久さん

「福沢諭吉を登場させた理由」。

「2010年、初めて本を出版した時に『中津』、『日本一になる』と言ったら仲間から『諭吉さんを起えるつてこと』と言われる、そこから構想を練り始めました。でも地元英雄、なかなか踏み切りがつかなくて。今年5月に編集者が『人は話し方が9割』が令和で一番売れた書籍になったと告げられ、さらに新札

「学問のすすめ」教えを物語で



青年が福沢諭吉の幽霊と対話し成長していくストーリー

ながまつ・しげひさ 1974年、中津市出身。な・塾生を始めた。国内外で飲食業を幅広く展開。2016年に東京・銀座を移し、出版・講演事業を手がける「人財育成（J・A・P）」を設立。19年出版の「人は話し方が9割」の発行部数は40万部（第10集巻目）を突破。これまでに34冊の著書があり、累計発行部数は150万部を超える。

の切り替えもあり、このタイミングで本を出そうと決めた。――「学問のすすめ」も明治のベストセラー。『現代語訳も出ているけれど難しい。諭吉さんが本当に伝えたかったことを現代の読者に届けたかった。読みやすさ、分かりやすさを心

がけ、青年との対話を軸にストーリー仕立てにしました。――諭吉の伝えたかったこととは。――「人は平等だけれど格差があるのはなぜか。それは学んでいるか、いないかの違いだ。人が学んで成長し、自立していけば、国も豊かになり自立する。『一身独立して一國独立』というのが一番伝えたかったことだと思います」――執筆に当たり印象に残ったことは。

「取材先がまさに自分が生まれ育った城下町。母校は南部小です（諭吉の提案で創設された津市学校『中津市学校』跡地に開設。諭吉さんが残してくれたものの中で育ったんだと感謝の念が湧きました。身近にありすぎて価値が分からなかった。逆に身近なところに宝があるんだと気付きました」――読者にメッセージを。――「手に取って、諭吉さんの生き方、思想に触れてほしいです。中津の人には地元を誇りに思ってもらえるようにと書きました。これ以上のエネルギーは注がないほどの思いを込めています」

本の巻末に、作中で巡った場所を紹介する動画や、中津市長との対談音声、市の観光地図、本には収めきれなかった章を楽しめる特典QRコードが付いている。著者の好意で特別公開する。



限定QRコード
読者の特典